



幸せな贈り物

幸せでなければならない人間が、どうして不幸に苦しまなければならないのでしょうか。歴史に残るに値する業績を立てた思想家や哲人、文学家、また、人間の内面の秘密の世界に対して絶え間なく質問をくりかえして、自分の霊的な秘密を解いてみようと思ってきた人たちです。

たとえば、釈迦は生老病死の秘密を解いてみようとして王子の地位を捨てて、苦行の道歩きました。ヘミングウェイは、人間の生というのは、窮極的に何なのか、どうやって生きるのが幸せなのかと、休むことなく質問して挑戦する中に、その秘密を解く糸口を捜して文章で表しました。ニーチェは形而上学的な世界に対する探求に一生を捧げました。

しかし、釈迦は、人がどうして生まれて死に、病んで年を取って行かなければならぬかに対する問いを偉大な話題として残したまま、自分もその死に勝つことができずに病んで死んで行かなければならなかったのです。ヘミングウェイは、四人の美しい女のひとと結婚して愛して、自ら小説のような生活を送っていたのですが、しつこく苦しめるサメの群れと孤独な海の真ん中で、まかじき一匹を守ろうといのちがけの死闘をした老人のように、人生を躍動的に送った彼も、結局、骨だけがやせこけて残った巨大な魚のように、自分に押し寄せてくる孤独と虚無に勝つことができなくて、自分のお父さんが死んだ、そのやり方そのまま、自分が大事にしていた獵銃でこの世の中と自ら別れました。キリスト教が神様、天国、復活などの虚構の概念を操作して、人間を無気力にさせたと責めて、人間が自ら持つ内面の意志と信頼を強調したニーチェ、彼もやはり、精神病院の床をはい回って、孤独な死を迎えたということは、だれもがみんな知っている事実です。

三災、その悪縁を切つてしまいなさい！

すべての人の最高の関心は幸せ(幸福)です。韓国で一番喜ばれる福の概念は2つあります。一つ目は仏教と係わって、大三災である火事、水害、風災と、小三災である刀兵災—疾疫災—飢饉災、そして八苦である、生、老、病、死、愛別離苦(愛する人と別れなければならない苦痛)、怨憎会苦(憎む人と出会わなければならない苦痛)、求不得苦(得たいことを得ることができないつらさ)、五陰盛苦(色・受・想・行・識の5陰が盛んで起きる苦痛)を避けることです。二つ目は、儒教的な概念ですが、具体的に書経に寿・富・康寧・有好徳・考終命など5福に言及されていて、三福は延命長寿・富貴榮華・平康安寧などで、結局、肉体的な安寧と願いごとの成就が福だと思っています。このような福を得るために、災いをふせぐ対策として三災期間には、すべてのことに気をつけて、おふだをつけたり、良法を行いなさいと言ったりします。それでは、はたして呪いと災いをふせぐことはできるのでしょうか。

呪いと災いをもたらす暗やみの勢力を先に分からなければなりません。もしかして、自分も知らないけれど、人間の運命と星回りを左右して不幸にさせる勢力があると考えてみたことはありませんか。シャーマンに会って話を率直に交わしてみると、共通的な話を聞くことができます。確かに悪霊は存在すると確信しながらも、自分たちの運命と家庭の問題を解決することができただけではなく、すべて破壊されていることが分かります。いったい人間を不幸にさせる実体は何でしょうか。聖書はその名前をサタンあるいは悪魔、その子分たちを悪霊と明らかにしています。ヨハネの黙示録 12章 9-12節を見ると、天か

ら落とされた御使い、墮落した天使だと言っています。エゼキエル書 28 章 13-17 節に、天国で音楽を担当していた御使いが高慢になり、神様に敵対して墮落して、追い出されるようになったのです。テコンドー 8 段が墮落しても、その能力は残っているように、御使いの能力を持って追い出されたサタンは、人間に現われて人生と家庭を崩して、社会と人間関係を崩して、墮落経済を作って、暗やみ文化を作っています。特に、神様が分からないようにさせて、神様と遠くなるようにたくらみます。サタンは、いつでも巧みに神様ではない他の偶像に仕えるようにさせます。そして、変な宗教を作って、むだで、むなしい人生を送るようにさせます。文化と音楽という名目で快樂を与えるふりをしながら、本当の幸せを奪ったり、暗やみの組織を立ててたましいを荒廃させて、地獄に入るまで人間を苦しめます。聖書は、このサタンが偽りの父であり、滅亡させる者だと確かに明らかにしています。この憎い霊的存在が分からなければ、人生の根本的な不幸がどこから始まるのかわからなくなります。

すべての人間に通じる幸せの原理があります
金持ちでも、貧くても、権力があっても、庶民であっても、学者でも、年をとった田舎のおばあさんでも共通に通じる永遠な真理があります。魚は水の中に生きているといのちがあって、鳥は空を飛ぶと自由で、木は地に根付くと実を結びます。同じように、私たちの人生も神様を離れれば、水を離れた魚のように喉が乾いてもがき、鳥籠に閉じこめられた鳥のように人生が息苦しくて、根が抜かれた木のように実もなく枯れてで行くのが、人間の創造原理です。神様を離れた人生の問題は、神様に会えば解決できるのですが、会うその唯一の道はイエス・キリスト、そのイエス様を救い主として受け入れることが人生の問題の解決の道であり、三災に苦しむ衆生が業報を解決して解脱する道で、シャーマンも解決する事ができない生年月日による運勢から解放される道なのです。なぜでしょうか。

人間の問題を解決してくださるために、この世に來られたイエス・キリストは、聖書に約束されたとおり肉のからだで人となってこの世にいらっしゃっ

て、十字架に死んで三日後に復活され、神様を離れたすべての人間が、神様に会うようにしてくださる唯一の道である真の預言者になられました(ヨハネの福音書 14:6)。十字架で私たちの罪をあがなって死んでくださることによって、私たちのすべての罪を解決して、呪いと災いから解放させる真の祭司になられました(マルコの福音書 10:45)。イエス・キリストは、死の權威を打ちこわして復活され、今も人間をいじめて地獄に連れて行くサタン(悪魔)のすべての權威を完全に打ちこわした真の王になられました。それで、聖書はイエス様を「キリスト」と言っています。人間が絶対に解決することができない根本問題を完全に解決した方だということです。

このイエス様を私の問題を解決したキリストとして信じて、私の心に受け入れれば、神様と永遠にもにいる神様の子ども身分を受けようになり、元々、人間が味わった祝福と權威を回復するようになります。今、この時間にあなたはイエス・キリストを受け入れることによって、神様の子どもになって、すべての呪いの三災から永遠に解放されて、本当に幸せな主人公になることができます。真実な心で下の祈りをすれば良いのです。

神様の子どもになる受け入れの祈り

愛の神様、私は罪人です。神様を離れて、サタンの支配の下に縛られて奴隷のように生きてきました。しかし、今、この時間イエス・キリストを私の救い主、私の主人として受け入れます。イエス・キリストは、神様に会う唯一の道であり、サタンの權威を打ち砕いて、すべての罪と呪いと災いから私を解放したキリストであることを信じます。今、私の中に入って来て、私の主人になってください。今から私の生涯を細かく導いてください。イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン

こういうわけで、今は、キリスト・イエスにある者が罪に定められることは決してありません。なぜなら、キリスト・イエスにある、いのちの御霊の原理が、罪と死の原理から、あなたを解放したからです。

(ローマ人への手紙 8:1-2)

神様の計画 新しい開始

死刑囚たちの手記を集めた「私のたましいを受けてください」という信仰のあかし集には 16 人を殺したある殺人鬼のキム・テドウの実話が入っています。彼は「なにか言うことはないか」という死刑執行官の質問に「まず神様に感謝します。私はもう死ななければならない身ですが、神様が私をあわれんでくださって神様を信じて救われるようにして下さったから感謝するだけです。私はみなさんと永久に別れるのではなくて、神の国へ行ってぜひ会いたいです。恵みをくださってありがとうございます...」

ペテロの手紙第一 1 章 9 節を見ると「これは、信仰の結果である、たましいの救いを得ているからです」と言われています。信仰の結論は熱心ではなく救いです。それでは、信仰の結論は伝道だということになります。その救いは伝道を通して現われるのです。天下を得たとしても、いのちを失えばむだであるように、人間のたましいの救いが神様の計画の中の計画で、目標の中の目標です。それで、新しい開始というのは、神様の計画の中に入って行くことです。

第一に、私の生活を先に神様の計画の中に入れなければなりません。私の生活のスケジュールが伝道と関係があるように合わせなければならぬということです。私たちが神様のみことばを握って、祈りをして、現場の中で生きていても、すべての方向はたましいを救う伝道にあります。実際に私が選択をしたり、なにか結論を出す時、伝道と関係あるように見たら、私としてはすべきことをみなしたことになります。残りは神様がなさるのです。このとき、真の答えも、力も、いやしも、経済も回復するのです。第二に、私たちの周辺にはいろいろな人との関係があります。まず重職者たちが、今、神様が願われる伝道の中にあるようにさせてあげなければなりません。それで、すべての一般信徒、教会へ来た新しい家族（新来会者）、専門家たち、私たちの次世代たちが、神様の計画の中にいるように手伝ってあげなければなりません。だめなことを熱心にすれば、結局は熱心にするのですが、よくならない結果がもたらされます。違った道を本格的に行けば、本格的に違った道になるのです。第三に、そうすれば真のいやしもこの中で起きるようになります。神の国ということを悟れば、聖霊の満たしをくださると約束されました。その神の国が臨むことが、すなわち救いで伝道です。第四に、それで重職者の使命の中に一番重要な使命が、まさにこの福音の光を放つことです。結局は伝道(キャンプ)にすべての焦点を合わせなければならぬということです。伝道と関連する祈りの課題を与えて、伝道と関係ある生活の方向を与え、その生活の現場で福音の光を放つとき、神様はすべてのことに答えてくださいます。神様が願われることは、私たちがこの伝道の祝福の中に入って来て、失敗しないように、正しい神様の働きを味わうようにさせようということです。今日、このような新しい祝福の開始になるように願います。

だから、神の国とその義とをまず第一に求めなさい。そうすれば、それに加えて、これらのものはすべて与えられます。(マタイの福音書 6:33)

神様の子どもたちの五つの確信

- 1 救いの確信：イエス・キリストを信じて受け入れた私は、神様の子どもになって救いを受けました(ローマ 8:15~16、I ヨハネ 5:10~13)
- 2 祈り答えの確信：神様の子どもはイエス・キリストのお名前でも何でも求めることができ、神様はみこころ通りに必ず答えてくださいます(ヨハネ 15:7)
- 3 導きの確信：神様は聖霊で私の中におられ、私のすべての人生を治めながら導かれます(ヨハネ 14:26~27、箴言 3:5~6)
- 4 赦しの確信：私のすべての罪はイエス・キリストのあがないの血の力で解決され、神様はだれでも罪を悔い改めれば許して下さいます(I ヨハネ 1:9、ローマ 3:24)
- 5 勝利の確信：救われた私は、世の中に勝たれたイエス・キリストによって、どんな問題の中でも信仰で勝利することができます(ローマ 8:31~37、I ヨハネ 5:4)

神様の子どもたちの毎日の祈り

父なる神様、イエス・キリストによって神様がいつも私とともにおられて、導かれることを感謝します。

今日も、すべての生活の中で、神様の子どもになった祝福を味わうように、聖霊で満たしてください。

私の家庭と現場と行くところごとに福音を邪魔して困らせるすべてのサタン勢力を権威あるイエス・キリストの御名で縛ってください。

どんなこと、どんな問題でも、解決者であるイエス・キリストに任せて、その中で神様のより良い計画を発見しながら、聖霊に導かれる生活になりますように。

そして、私の生活を通してイエス様がキリストであるということがあかしされ、私の現場に神の国が臨むようにしてください。

毎日、私の生活の中で神様の願いである世界福音化の契約を握って勝利できますように。

今も私とともにおられるイエス・キリストのお名前によってお祈りします。アーメン

暗やみの中で宝を探すのですか？

世の中には二種類の人がいる。伝道する人と伝道されなければならない人だ。この言葉は、福音が分かる者と分からない者、すなわち、救われた人と救われなければならない人があるということだ。私たちが喜んで私たちの物質と時間をささげて人を捜して会うことは、この一つの理由のためだ。真の伝道は、暗やみの中にいる人を生かすことだから、伝道の中にすべての祝福が入っている。

旧約聖書のイザヤ預言者は、自分より 200 年後に現われるクロス王について預言しながら、彼は油が注がれた王、すなわち、メシヤだと紹介する。「太陽」という名前の意味を持ったクロス王は、メディアを崩して、バビロンを征服し、ペルシヤを立てた王だ。クロスが王になってからは、捕虜になった神様の民イスラエルを故郷へ帰るように許したので、教会を生かす価値のある事をするようになるはずだというイザヤ預言者の預言は成就した。しばらくの間、イスラエルの救い主として働いたが、クロスにつけられた「油注がれた者」という称号は、絶対的であったり、永遠な価値を持っているのではなかった。しかし、教会を助ける一時的な未信者クロスには、神様が与えられた福音なしに味わうことができる富、すなわち、「暗やみの中の宝」を得るようになると言われた。クロスは、救われた神様の子どもではなく、契約の民ではなかったもので、確かに暗やみの中にいる者だった。しかし、救われることができなかつた人にも与えられる一般恩寵を神様が与えられたので、暗やみの中の実、すなわち宝を味わうようにされたのだ。

信徒はイエスがキリストであることを信じて救われ、身分が変わった者だから、暗やみに属する場から完全に出ている。だから、信徒は暗やみが原因になるすべての活動から完全に自由だ。結局、暗やみ

の中の宝は、信徒の分け前ではなくて、未信者の分け前であることが分かる。未信者は、暗やみに縛られているから、霊的問題にそのままさらされて、偶像に仕えて、精神的に苦しみ、生活はむなしく、次世代の苦しみに縛られるが、救われた神様の子どもは、天の力にしたがって、御使いの助けとともに暗やみを打ち砕く力を使う。黒い墨は、いくら磨いても黒い墨汁が作られるだけだ。暗やみは、未信者を捕らえて苦痛を与えることができても、信徒には張子の虎に過ぎない。信徒の現実、暗やみの勢力から救い出されて、神様の愛の息子の国に移されたから、キリストの完全さを通じて完全な答えを見るようになる。神様は、人生で暗やみが土台になったり、暗やみの中で創造されるとか、暗やみが原因となる事はされない。ひたすら未信者だけが、そのような暗やみの中にいるので、苦しみが慰めになって、通じないことが答えになる理由がそれだ。しかし、福音の中にいれば、神様の奥義であるキリストを悟るようになり、その中には知恵と知識のすべての宝が隠されている。神様は私たちがどんな場合でも暗やみを通じて恵みを受けるようにはされなかった。ただキリストを通して恵みを与えることを願われ、その祝福は今も同じである。詐欺師の言葉をじっと聞けば詐欺にあうのだが、キリストを受けようになって、すでに暗やみを脱した私たちが、再び暗やみのくひきの下で霊的原因を捜して入って行くということは、未信者の現実を信徒の弱さに適用させて、信仰の過程であるように混乱を与えてだます策略にすぎないのだ。

チョン・ヒョングク牧師(福音コラムニスト)